

2018年8月15日

町田市長  
石坂 丈一 様

町田市環境マネジメントシステム  
外部評価委員会委員長 松波 淳也

## 2018年度町田市環境マネジメントシステム外部評価報告書

### 1. はじめに

町田市では2012年度から町田市独自の環境マネジメントシステムを運用し、庁内の環境配慮活動と市域全体に対しての環境施策を推進している。

この環境マネジメントシステムの運用に関し、その評価を適正かつ公正に実施することを目的として、市民・事業者・学識経験者で構成した「町田市環境マネジメントシステム外部評価委員会」を設置している。

外部評価委員会では、この環境マネジメントシステムの運用とこれに基づく活動に対して、客観性を担保し、透明性を高めるため、第三者の立場からの評価を実施した。

### 2. 外部評価の方法等

#### (1) 外部評価委員会の構成

- ・ 市民5名、事業者3名、学識経験者3名の計11名の委員で構成
- ・ 委員の任期は2年、現委員の任期は2018年6月から2019年9月

#### (2) 評価対象

##### ① 組織

全庁全課（市立の小中学校を含む）

##### ② 活動

「町田市第4次環境配慮行動計画」に基づくエコオフィス活動

#### (3) 評価内容

##### ① 環境パフォーマンス

温室効果ガス排出量、エネルギー使用量、廃棄物排出量、紙資源使用量、グリーン購入の実施状況

##### ② 環境活動の状況

エコオフィス活動(共通の取り組み)、エコオフィス活動(施設を管理する部署の取り組み)  
内部環境監査結果および是正状況

#### (4) 実施方法

- ① 基礎情報の提示と説明（第1回外部評価委員会）  
事務局が、環境マネジメントシステムの運用状況及び成果を示す(5)の文書および資料を第1回外部評価委員会にて外部評価委員に提示し、内容を説明する。
- ② 1次評価の実施  
外部評価委員は、事務局より提示された文書および資料を基に評価項目<sup>※1</sup>ごとに評価基準<sup>※2</sup>にしたがって評価点と評価意見を付し、事務局に提出する。
- ③ 現地確認の実施  
外部評価委員は、実地による確認が必要であると判断した部署および施設を訪問し、取組み状況等を確認する。
- ④ 評価結果の審議（第2回外部評価委員会）  
事務局は、1次評価結果および現地確認による評価結果をとりまとめ、第2回外部評価委員会に提出する。  
外部評価委員は、評価結果を審議する。
- ⑤ 2次評価の実施  
外部評価委員は、審議の結果を踏まえて、あらためて評価項目ごとに評価点と評価意見を付した2次評価を実施し、事務局に提出する。
- ⑥ 外部評価報告書のとりまとめ（第3回外部評価委員会）  
事務局は、2次評価結果をとりまとめ、第3回外部評価委員会に提出する。  
外部評価委員会は、すべての評価結果を精査し、外部評価報告書としてとりまとめる。

#### ※1：評価項目

(1) 町田市環境マネジメントシステムに対する評価		(2) 運用状況に対する評価	
評価項目	評価内容(例)	評価項目	評価内容(例)
システム全体	・対象範囲 ・運用スケジュール	温室効果ガス エネルギー	・目標達成状況に対する評価 ・経年変化に対する評価
計画	・取組内容	廃棄物 紙資源 グリーン購入	・目標達成状況に対する評価 ・経年変化に対する評価
実施	・職員教育 ・運用方法	エコオフィス 活動(共通の 取り組み)	・各職場の活動状況に対する評価
点検	・日常点検 ・内部環境監査手法	エコオフィス 活動(施設を 管理する部 署の取組 み)	
見直し	・外部評価 ・市長見直し ・情報開示	内部環境 監査	・監査結果に対する評価 ・是正対応状況の評価

#### ※2：評価基準

評価点	5	4	3	2	1
評価内容	評価できる	概ね 評価できる	普通	あまり 評価できない	評価できない

(5) 外部評価委員会に提示された文書および資料等

- a. 2017年度町田市環境マネジメントシステム実績報告書
- b. 2017年度内部環境監査結果報告書
- c. 2017年度町田市環境マネジメントシステム外部評価報告書
- d. 2017年度町田市環境マネジメントシステム市長総括記録
- e. 上記文書および資料に関連するデータ等

3. 外部評価委員会の実施日時および実施内容

区分	日時	内容
第1回 委員会	6月28日 18時30分 ～20時30分	(1) 外部評価の内容及びスケジュールの確認 (2) 環境マネジメントシステムの実績報告
1次 評価	6月29日 ～7月6日	各委員による1次評価の実施
現地 確認	7月10日 ～7月13日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・7月10日 9時30分～11時30分 監査事務局（町田市庁舎）、さるびあ図書館</li> <li>・7月12日 13時30分～15時30分 防災課（町田市庁舎）、青少年施設ひなた村</li> <li>・7月13日 9時30分～11時30分 経営改革室（町田市庁舎）、生涯学習センター</li> </ul>
第2回 委員会	7月26日 18時30分 ～20時30分	(1) 現地確認結果の報告 (2) 事務局ヒアリング（各委員からの質疑応答） (3) 1次評価結果について審議
2次 評価	7月27日 ～7月31日	各委員による2次評価の実施
第3回 委員会	8月8日 18時30分 ～20時30分	(1) 2次評価結果について審議 (2) 最終評価結果のまとめと市への提言

#### 4. 外部評価結果

##### (1) 町田市環境マネジメントシステムに対する評価

評価項目	評価点 (平均点)	主な評価意見
システム 全体	4.4	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 外部評価システムも組み込まれ、自治体の EMS として先進的なシステムであると評価できる。</li> <li>◆ 学校や指定管理施設も含む市の全施設および全職員を対象としていることは高く評価できる。</li> <li>◆ システムを変更して数年が経過しているため、形骸化しないよう意識改革を続けることを望む。</li> <li>◆ 内部環境監査において、廃棄物処理の不備や理解不足など法令遵守が危ぶまれる状況が複数指摘されている。定期的に遵法性を確認する仕組みが必要である。</li> </ul>
計画	4.3	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 温室効果ガス排出量は排出係数の影響を受けるため、取り組みの効果を直接把握できるエネルギー使用量をベースにした目標設定は評価できる。</li> <li>◆ 各課・施設の取り組みは概ね評価できるが、業務特性や施設特性を配慮した取り組みの見直しや拡充によって、目標達成に近づけることが望ましい。</li> <li>◆ プロジェクターなどの積極利用や遠隔会議など、行政業務全体の効率化のなかで省資源化を進める可能性も検討すべきである。</li> <li>◆ 省エネ対策会議を通じた検討が、いつまでにどのような形で結実するか明確にした上で、施設等更新計画も合わせて明らかにすることが求められる。</li> </ul>
実施	3.4	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 優良事例を研修資料や庁内掲示板で共有していることは評価できる。</li> <li>◆ 集合研修の出席者が増加している点は評価できるが、e - ラーニング研修において学校教職員の受講者が大幅に低下している点が残念である。</li> <li>◆ 研修については、職場環境や職種を考慮に入れ、より職員が受講しやすくなるよう柔軟に対処することで、ボトムアップを図れるのではないかと。</li> </ul>
点検	4.4	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 定期監査に加え、フォローアップ監査も実施する先進的なシステムであると評価できる。</li> <li>◆ フォローアップ監査によって、内部環境監査の改善・不適合事項の措置が完了していることは概ね評価できる。</li> <li>◆ 内部環境監査員を職員から選出することで、環境マネジメントシステムに対する関心と理解を深められる仕組みと評価できる。</li> <li>◆ 遵法性の確認にあたっては、各部局・施設の環境関連法令一覧を作成し、定期的な確認をするとともに内部環境監査による点検が必要である。</li> </ul>
見直し	4.0	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 外部評価委員による環境パフォーマンス、環境活動状況の評価は、町田市独自の仕組みで透明性が高いことは評価できる。</li> <li>◆ 市長総括を下半期の e - ラーニングの研修や次年度の研修に活かしている点は評価できる。</li> <li>◆ 活動結果の公表は評価できるが、市民等からの反応は皆無という状況は非常に残念である。市民等からの意見を得られる工夫が望まれる。</li> <li>◆ より多くの市民に閲覧してもらえるよう、広報による PR 等を行うとなお良い。</li> </ul>

## (2) 運用状況に対する評価

評価項目	評価点 (平均点)	主な評価意見
温室効果ガス排出量・エネルギー使用量	3.3	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 市全体として温室効果ガス排出量は減少しているが、部門によっては増加しているため、目標の達成に向けてさらなる取り組みが必要である。</li> <li>◆ 温室効果ガス排出量について、現状のままでは2021年度の目標達成がかなり難しいのではないかと。</li> <li>◆ 2021年度の目標達成に向けて、少しずつでも努力することを望む。</li> </ul>
廃棄物・紙資源・グリーン購入	3.2	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ グリーン購入については、昨年度から高い達成率をあげていることは評価できる。引き続き環境に配慮した調達を望む。</li> <li>◆ 小中学校の紙購入量は増加しているため、原因を細かく検証し、市内外の学校の優良事例を共有することが望ましい。</li> <li>◆ 小中学校の紙購入量の増加については、カリキュラム上やむを得ない場合があるため、それ以外の部分で削減の工夫ができるのではないかと。</li> <li>◆ 廃棄物排出量、廃棄物の再利用率、紙購入量等についても、削減目標を設定し取り組むことを望む。</li> <li>◆ 廃棄物の組成を含めた経年変化のデータを整備していくなかで、改善の余地がどこにあるのか見極めていく努力が求められる。</li> </ul>
エコオフィス活動(共通の取り組み)	4.2	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 概ね高い水準であり、各職場においてエコオフィス活動を意識した活動をしていると評価できる。</li> <li>◆ 業務の都合上、評価が低い場合はその旨を報告し、業務の特性に応じた対策を提案できることが望ましい。</li> <li>◆ (職員のエコオフィス活動だけでは限界がある)施設の更新/再編を進めるなかで、環境負荷低減の視点をより重視することが不可欠である。</li> </ul>
エコオフィス活動(施設を管理する部署の取り組み)	4.1	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 定期点検や日常運用について概ね高い水準で運用しており、各職場においてエコオフィス活動を意識した活動をしていると評価できる。</li> <li>◆ 改善の余地はあるものの、利用者への配慮や予算等の制約がある中での活動は評価できる。</li> <li>◆ エコオフィスチェックシートで「×:未実施」と評価した部署には、その理由を確認し、改善が可能な場合は対応する必要がある。</li> </ul>
内部環境監査	4.0	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ フォローアップ監査によって指摘事項が改善されていることは評価できる。</li> <li>◆ 「不適合」については速やかに是正措置がされているため、フォローアップ監査を早い時期に実施しても良いのではないかと。</li> <li>◆ 産業廃棄物保管場所の掲示板や、囲いの設置の不適合については法令遵守の範囲であり徹底が必要である。</li> <li>◆ 法令遵守に関する指摘が検知された場合は、監査対象外の部署へも直ちに情報共有する必要がある。</li> </ul>

## 5. おわりに（まとめ）

町田市環境マネジメントシステムは、市の全施設・全職員を対象範囲とし、環境配慮行動計画に基づく市の温室効果ガス排出量削減目標達成のための全職員の環境活動を進行管理する仕組みであり「職員による内部環境監査」「市民等の第三者による外部評価」「取組実績、内部監査結果、外部評価結果の開示」等の透明性の高い評価プロセスを取り入れている先進的なシステムであるといえる。

職員に対しては、集合型の職員研修に加え、e-ラーニング研修、周知文書や掲示等で環境意識の向上に努めている。今回、実施した現地確認においても、日常的なエコオフィス活動は徹底されている様子が見て取れた。実際に、組織全体としてのエネルギー使用量も減少していることは評価できる。

しかし、新しい「町田市第4次環境配慮行動計画」に掲げる目標を達成するためには、さらなる成果が求められる。行動計画に明示している全庁共通的な取組みだけではなく、「施設・職場特性および業務特性を考慮した独自の取り組み」「行政事務自体の効率化」「施設の更新・再編時の環境配慮視点の組み込み」を促し、マネジメントしていくことが必要だと思われる。

また、今回、内部環境監査において、廃棄物処理手続きに係る対応不備や担当者の理解不足といった法令遵守が危ぶまれる状況が複数件指摘されていた。法令管理のプロセス（適用法令の把握、遵守状況の定期的確認、担当職員への教育等）は強化すべきである。

最後に、活動実績や監査結果等は詳細に開示されているものの、実際に市民に知られているとは言い難い。「全職員が環境活動に努力し、成果をあげている」ことをアピールすることは、市民の環境意識啓発にも繋がるはずである。“よりわかりやすい表現方法”“より伝わりやすい周知方法”を再検討していただきたい。